

1. 科目名 (単位数)	文章表現 (2単位)	3. 科目番号	GELA1107
2. 授業担当教員	皆吉 淳延		
4. 授業形態	講義、グループワーク、演習 (論作文)、発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>大学での講義及び演習 (ゼミ) では、レポートを書いたり発表したりという表現力が要求される。この授業では、大学での学習や研究に必要な「書く」技術の基礎訓練を行うことをねらいとしている。</p> <p>したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な文章の表現法である。文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現的的確さ、わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学習する。</p> <p>本科目の授業を通じて表現力やコミュニケーション能力を養うことは、大学段階にとどまらず、今後の社会でますます重要となってくるものであることを認識する必要がある。</p>		
8. 学習目標	<p>以下について学習・理解し、レポート・論文が書けるようになることを学習目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 文章表現の基礎、レポート・論文の書き方の基礎的・基本的事項について理解する。 2 わかりやすい言葉 (表現方法) で、明瞭で論理的な文章を書く技術を習得する。 3 実践的な訓練を通して、自分の考えや意見を論理的に述べる文章表現力を身に付ける。 4 定評のあるオピニオン誌の論文や新聞の社説などに触れ、現実の捉え方やものの見方を学ぶ。 5 文章の読解力と文章の構成力を養い、文章表現に対する苦手意識を払拭する。 		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学習課題に指示した事前学習・事後学習を必ず行った上で授業に参加すること。 2) レポートを作成する。詳しい作成方法などについては、授業中に説明する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 坂東実子『大学生のための文章表現練習帳』国書刊行会、2016 (2018 初版第三刷)。</p> <p>【プリント教材】 授業内でプリントを配付する。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レポートや論文の書き方に関する基礎的、基本的事項を理解しているか。 2. 分かりやすい表現方法や明瞭かつ論理的な文章を作成する力がついたか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 積極的 attitude (発言、討議、取り組み等) 総合点の 30% 2 レポート (小課題を含む) 総合点の 70% <p>上記の他に、本学の規定に定められている 3/4 以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>自分の考えを文章で表現することの楽しさを知り、文章力向上を目指しましょう。</p> <p>以下の点には注意してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 欠席、遅刻、早退などせず、真面目に参加すること。 2) 提出物、宿題は必ず提出すること。 3) ノートを一冊用意 (表紙に氏名明記) すること。 4) 教科書、配付プリント、ノートは毎回必ず持参すること 5) わからないことは、担当教員に必ず質問、確認をすること 		
13. オフィスアワー	初回の授業時に指示する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	科目のガイダンス (シラバス、授業の進め方) 自己紹介文を作成し、発表する。文章を論理的につなぐ基本を学習する。	事前学習	自己紹介がなぜ必要か、考えをまとめておく。
		事後学習	作成した自己紹介文を見直す。
第2回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』pp. 12~19 を解説する。常体・敬体の区別を学習する。	事前学習	教科書 pp. 12~15 を読み、問題を解く。
		事後学習	文章によって常体・敬体を使い分けるときの注意点を整理しておく。
第3回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』pp. 24~33 を解説する。客観・主観を意識する。論文の構成や段落のわけ方を学習する。	事前学習	教科書 p24、p30 を読み、考えをまとめる。
		事後学習	論文の構成・段落の分け方について整理しておく。
第4回	話し言葉と書き言葉の違いを学習する。事実と意見の違いを学習する。プリントを使用する。	事前学習	話し言葉と書き言葉を日常会話や普段読んでいる本から探してくる。
		事後学習	プリントに示した代表的な話し言葉と書き言葉を覚える。事実と意見に注意して文章を書けるようにする。
第5回	段落に関する課題を解く。構成及び段落わけが身についたか確認する。	事前学習	論文の構成・段落のわけ方について再度確認する。
		事後学習	段落のわけ方をまとめた授業ノートを復習する。
第6回	プレゼンテーションについて学習する。原稿の作り方、口頭発表の仕方、非言語の役割について学習する。	事前学習	対話するときに、どこに注目しているか各自考えてくる。
		事後学習	授業の復習をし、プレゼンの準備をする。

第7回	広告文を作成し、プレゼンテーションを行う。	事前学習	身近にある広告文を調べてくる。
		事後学習	よりよいプレゼンをするためには、どこに注意すればよいか、ふりかえる。
第8回	文章の要約の仕方と、教科書『大学生のための文章表現練習帳』pp. 36～47を解説する。要約文と意見文について学習する。わかりやすく相手に伝え、説得力がある文章の書き方を学習する。	事前学習	高校生のときに学んだ小論文の書き方の復習しておく。
		事後学習	要約文、意見文についての学習内容を復習する。
第9回	要約文と意見文の課題を出す。前回学習した内容をふまえて書く。グループでディスカッションをしてから文章作成に入る。	事前学習	前回の学習内容を復習しておく。
		事後学習	説得力がある文章が書けたかどうか自己点検する。
第10回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』pp. 84～89を解説する。敬語について学習する。	事前学習	敬語を使う場面をまとめてくる
		事後学習	敬語の機能と使い方について、復習する。メールの書き方や場面における使い分けなど、実生活で役立てられるようにする。
第11回	教科書『大学生のための文章表現練習帳』pp. 76～82を解説する。レポートの書き方及びデータや文献の示し方について学習する。	事前学習	データや文献の重要性について考えてくる。
		事後学習	根拠となるデータや文献の示し方について復習する。
第12回	教員がレポートのテーマを設定する。そのテーマを学生が絞り込み、講義の内容をふまえてレポートを作成する。	事前学習	前回学習した内容を復習する。
		事後学習	レポート課題をとおして、これまでの学習内容を振り返る。
第13回	文章読解。プリントを使用する。	事前学習	難解な文章に出会ったときの読み方について考えてくる。
		事後学習	筆者の主張のとらえかたなど、学習内容を復習する。修正箇所注意到意して、正確な文章を書けるようにする。
第14回	文章の修正の仕方を学習する。プリントを使用する。	事前学習	今までの学習内容をふまえ、書き終えた文章をチェックする箇所について考えてくる。
		事後学習	修正箇所注意到意して、正確な文章を書けるようにする。
第15回	最終レポート。この授業を受講した結果、文章力がどのように変化していったか、その過程を文章で説明する。	事前学習	この授業の成果について、考えをまとめておく。
		事後学習	これまでの学習内容を振り返り、文章力の変化を確認する。